

水でたどる歴史とあゆみ

東山配水塔から東山給水塔へ

覚王山日泰寺の北側に位置する東山給水塔は、昭和5年(1930年)3月に東山配水塔として建設され、昭和48年(1973年)2月までの約43年間、地盤が比較的高い東部丘陵地帯に配水するために利用されてきました。

昭和54年(1979年)3月からは名称を東山給水塔と改め、災害対策用の応急給水施設に改造され再利用されています。塔の最上部にある貯水タンクは、直径8.4m 深さ7.2mのおわん型で、常に300m³の新しい水を貯えています。

昭和58年(1983年)には最上部に展望用スペースととんがり屋根を設けたことから現在の形となりました。その展望用スペースは、地上から27.0m(標高74.3m)の高さにあります。



建設時の東山配水塔



現在の東山給水塔

名古屋市の歴代マンホールのふた

昭和52年(1977年)10月から採用されました。材質や構造が強化されており、分流式区域における污水管の歩道、車道部分に使用しました。「污水」の文字が入っており、穴はありません。

污水ふた



水の歴史資料館
HISTORICAL MUSEUM OF WATERWORKS AND SEWERAGE

開館時間：午前9時30分～午後4時30分
休館日：月曜日(休日の場合は直後の平日)
館内展示内容やイベント情報の詳細はHPへ!